

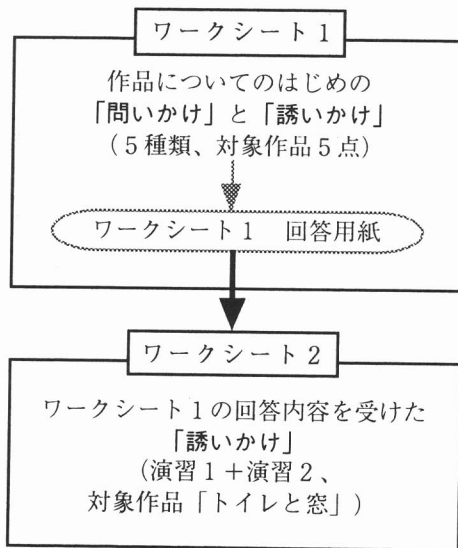
## II 研究の実際

教材として、対象作品についての「問いかけ」及び「誘いかけ」を内容とする、プリント形式の鑑賞ワークシートを作成し、それをを用いた指導過程を立案し、授業を行った。

鑑賞対象作品には、使用教科書である『美術 1』（光村図書刊）掲載の絵画作品の中から5点を選んだ。

### 1 ワークシートの作成

ワークシートは、次のように全体を構成した。



ワークシート全体構成図

「ワークシート1」では、対象作品などについての「問いかけ」や「誘いかけ」によって、生徒一人一人の率直な視点や見方を引き出すようにした。

「ワークシート2」では、対象作品として「トイレと窓」のみを取り上げ、「ワークシート1」での回答結果をもとにした話し合いなどによって、それらを掘ったり深めたりした自分なりの作品の読みとりを、生徒なりに表現させることとした。

「ワークシート1」の作成に当たっては、次のような点に留意した。

- 生徒の、作品への注視を促すものであること。
- 作品などを見る「視点（観点）」の重要さと多様さに気づかせるものであること。
- 生徒の着目点に応じて、作品の多様にとらえ

方を引き出すものであること。

- 生徒の見方や感じ方が、生徒それぞれの工夫で表現されるものであること。
- 「問いかけ」や「誘いかけ」のみを与え、一定の答えを求めるものでないこと。

「ワークシート1」は次の5つのパートで構成し、それぞれ対象作品などの図像とそれについての簡潔な「問いかけ」や「誘いかけ」の文章を組み合わせて作成した。

#### ① 「ウォーミングアップ」

様々な動物のシルエットを並べ、それらの分類のしかたを考えさせる「分類ゲーム」を通して、「見る」際の視点（観点）の重要さと多様さに気づかせるためのもの。



#### ② 「見つけよう！」（対象作品：「静物」ジョルジオ＝モランディ）

対象作品とそれをコンピュータで画像処理したものを比較させ、その効果の違いから作品を見る視点を引き出すとともに、表現意図などについて考えさせるもの。

